

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年1月28日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300948
法人名	辛 卯
事業所名	グループホーム 和みの家
所在地	鹿児島県鹿屋市西大手町8190番地1 (電話) 0994-40-7855
自己評価作成日	平成27年11月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年12月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①関係機関として協力病院と特養があります。病院とは24時間の医療体制を図り、特養は催し物の参加、災害時の避難場所提供での機能も果たしています。
- ②環境も病院、商店街、公共施設のある立地条件も良く、町内会長他、近隣の方達が散歩時の声かけ等で話をしたりして地域社会との繋がり、交流を持てるよう努めています。また、最近から町内のサロン会にも声かけしてくださり参加しています。
- ③家族には毎月、生活状況をお知らせして、安心して頂けるような関係に努めています。
- ④運営推進会議においては、家族代表者、市職員、町内会長、民生委員、地域代表者、町内のグループホームさんの出席を頂、いろんなご意見でよりよいサービスに努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、関連機関の協力医療機関との24時間医療連携体制が築かれており、受診には日常の状況を把握しているホームの職員が同行し、医師への的確な情報提供及び家族への結果報告を行っている。
- ・災害時等における協力体制は、関連の医療機関及び特別養護老人ホームと構築されており、避難訓練はホーム内だけでなく、実際に避難場所の特別養護老人ホームに送迎車で避難し避難場所における受け入れも訓練に含める等、災害対策に積極的に取り組んでいる。
- ・運営推進会議は、コンビニ店長や他グループホーム職員も参加して地域の理解や協力を得る良い機会となっている他、同業者との情報交換なども活発に行われている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	基本理念とサービス理念を毎日の申し送り、会議（ケア会議、ミーティング）等で唱和して、意識的に理念の意味を共有してケアの実践につなげている。	理念は大きな字でホールに掲げている。月次目標をたてて、個々の尊厳と地域の中で日々楽しく暮らせるようケアに取り組んでいる。ケア会議やミーティングで理念の意義を振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して、施設の行事や運営推進会議に参加して頂いたり、町内のサロン会に参加させて頂き、地域の方達との交流を図っています。また近辺を散歩中、出会った方達と会話を楽しまれています。	町内会に加入し、地域行事の総会やサロン会・奉仕作業等に参加している。ホームの行事には町内会長や民生委員・ボランティアの参加協力があり、中学生の体験学習やヘルパー実習・ボランティアの受け入れ等、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	施設見学、家庭での悩み相談、サービスの受け方などの説明などの支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入所者の現況報告、行事、活動等の報告、出席者からの意見を参考にサービス向上に活かしています。</p>	<p>会議は定期的開催している。ホームから状況報告や活動報告及び意見交換が行われて、出された意見を参考に避難所へのルートの見直しも行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市からの通達事項等、毎日メールチェックを行い、行政との連携を図り、日々のケアサービスに取り組んでいます。</p>	<p>市担当者からメールによる情報提供を受けたり、重要な相談はこちらから出向いて適切な助言や情報を得ている。運営推進会議に出席して実情を把握してもらっている。生活保護担当者の来訪もあり、報告や意見交換等で連携を密に取っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会による廃止への取り組みに努めている。 (緊急やむを得ない場合の対応) 三原則を理解した上で手続きに沿って、家族への説明、理解を得て、毎月の会議で個々の心身の状態を観察、落ち着いた見守り、散歩等には側に寄り添い見守り、散歩等に誘います。</p>	<p>毎月身体拘束廃止委員会を中心に事例検討を含めた勉強会を実施し、身体拘束についての理解を深めている。玄関は施錠せずに防犯カメラを設置している。不穏状態の時は見守りや声かけ・散歩・ドライブに行ったりして利用者の自由な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事あるごとに虐待防止についての勉強会を実施しています。忙しさから荒い言葉使いやストレスを感じないためには、双方が注意しあったり、思いやりの気持ちで接するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会で成年後見制度についての理解を持ち、活用の仕方など、双方の誤解の無い関係を保てるよう調整しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所以前に家庭訪問や、施設見学等で施設の生活スタイルなど説明し、本人、家族が理解、納得されて双方の意向に沿った状態で契約を交わっています。解約時も同じように家族の要望を傾聴し納得された上で行います。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や行事等で個々に意見をきいたり、運営推進会議で意見をもったり、玄関に設置してある意見箱の活用を呼びかけ運営に反映しています。	利用者からは日々の暮らしの中で思いを聴き把握している。家族からは年3回の家族会をホームの行事と併せて実施し、面会等の機会を含め家族が要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。家族からの要望を受けて、医師の指示による病院リハビリやホーム内の生活リハビリに取り組む等、意見を運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議、個別面接等で職員の意見を聞く機会を図っています。	代表者及び管理者は、ケア会議やミーティング時に職員の意見等を聞く機会を設けており、必要時は個別面接を実施している。個別の相談は日常的に対応し、可能な限り業務改善やサービス向上に反映している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	入所者様に対するケアの評価、勤務状況（態度）の実績を把握し、全体的にケアの質の向上（資格試験、研修会等の体制を積極的に参加）働きやすい条件等の整備した。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格受験の講習、実技試験免除講習会受講料の負担費支給、研修費支給、公務扱いで職員の資質向上に努め実施した。施設内では自主勉強会など積極的に取り込み実施した。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修会、運営推進会議等で交流を図りながらサービスの資質向上の相乗効果に努めた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	各機関等による情報収集と家族、本人との面談で要望、施設での生活状況の説明などで納得され安心した状態での受け入れに努めています。		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	本人家族との話し合いで入所の見極めをされた上で受け入れ開始した。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	他の利用サービス（自宅での）説明、入所申し込みなどの紹介、パンフレット、各事業者さんとの連携等図りました。		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	自立可能な部分はスタッフと一緒に実地しています。（簡単なテーブル拭き、洗濯たたみ、調理の下ごしらえ、お膳拭き）等。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便り（状況報告）、面会等での配慮（一緒にお茶の勧め）、各行事等の参加の呼びかけで交流の場を図り、なるべく一緒に時間を提供した。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り、いつも通っていたお店、美容院、自宅付近の風景などにお連れ（本人の意向）してなじみの方達との会話を楽しまれた。知人、親戚の面会ある時など、場所等の配慮を行い、ゆっくり話ができる環境を提供します。	本人の要望に沿って、墓参りや自宅周辺へのドライブ、馴染みの美容院や買い物等に同行している。友人や家族等の面会も多く居室でお茶を飲みながらゆっくりしてもらおう等、これまでの関係を継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事はホールで一緒に行い、入所者様同士が笑顔で挨拶を交わせるような関係を図り、楽しく食事できる雰囲気を行っています。レクリエーション、リハビリ（軽い体操、屈伸運動、立位保持訓練）実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお見舞いに行き話をする機会を設け、退院後の相談等にサービス利用の仕方などアドバイスしています。また、他界時は最後のお別れをさせて頂きました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	必ず「家に帰る、夕食を子供に作る」等落ち着きのない時は一緒に外の風景を見たり、どうしても落ち着かない場合は家族の協力を得て電話で声を聴くだけでも落ち着かれます。個別に興味を楽しむ方、お菓子を食べていなど要望に応じています。	本人や家族から聞き取りをして、日々の暮らしの中でその時の意向をくみ取るようにしている。職員が思いを共有し本人が楽しく暮らせるように支援している。会話での把握が困難な場合は、行動や仕草から推測することもあり、本人中心の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活（情報提供）の流れを重視しながら孤立しないように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントにより個々の状態把握を行い、ケアプラン作成を実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向に沿って状態把握して無理の無いプラン作りに心がけています。支援経過とモニタリングで、次回に反映しています。	担当者会議には本人や家族・職員等が出席して、主治医の意見を基本にそれぞれの意見や提案により、介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に、見直しは6ヶ月毎に行っている。状況変化時は現状に即した計画になるよう取り組んでいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の介護日誌、ケア記録のチェック、ケア会議、ミーティング、担当者会議等で検討し、実践している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>毎日の介護日誌、ケア記録のチェック、ケア会議、ミーティング、担当者会議等で検討し、実践している。その日によって状態も変わる事もありえるので、柔軟に対応しています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>鹿屋夏祭り見学、町内会の催し（サロン会、花苗配布）、ボランティアによる慰問、近くにあるスーパーでの買い物等楽しまれています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院、各専門病院との連携を図り適切な医療を受けています。緊急時など家族に連絡を、希望病院などあるか確認を行っています。定期受診で、状態を伝え、医師の指示、薬の処方をされる。受診時はスタッフが付き添い送迎まで行っています。</p>	<p>本人及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医も入所前からの医療機関を継続している。定期受診はホームの看護師が同行支援している。協力医療機関と緊急時の24時間医療連携体制が整っており必要時の往診を含めて、適切な医療が受けられるよう支援している。情報は全職員・家族が共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日々の状態確認（バイタル、顔の表情、食事摂取量、発語（呂律状態）等把握を行い逐次看護師に報告、連携を図っています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院との連絡を図り、見舞いを兼ねて変化等状況把握に努め、県外に家族が在所の場合は当施設から洗濯物類のサービスに努めます。家族に状態など連絡を取るようになっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所契約時に終末期までを説明する時もあるが、基本的には主治医が入院の必要の説明があれば家族と相談し、意向を聞きながら対応している。可能な限りは施設で看ることもあります。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について説明し、同意書をもっている。状況変化時に家族と同行して主治医からの説明を受け、再度ホームの対応について説明し、家族の意向を確認しながら対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の応急手当方法は勉強会等で実施しています。マニュアルをもとに訓練しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策としては年3～4回避難所（井ノ上病院、特養悠々、鹿屋リナシティ）までの避難訓練を実施している。訓練事前に避難先と連絡をとり、協力を得ています。2ヶ月置き火災訓練実施。年に2回は夜間想定で実施しています。スプリンクラー、消火器、火災通報装置等の設置、非常食、衣類等の備蓄も整備しています。</p>	<p>災害対策マニュアルがあり、年2回夜間想定で避難訓練を行っている。年1回消防署立ち会いで夜間想定避難訓練及び年2回昼夜想定自主訓練を実施している。地域の連絡網も整備され、防災マップも作成されている。自主訓練には町内会役員の参加を得ている。同系列の医療機関及び特別養護老人ホームとの協力体制を築いている。災害時の食糧等の備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入所契約時に個人情報の同意を得ています。（各関係機関に情報提供等） 尊厳のある表現、言葉使い、入浴、排泄、更衣等は居室でプライバシーを確保しています。</p>	<p>接遇や権利擁護の研修を受講し、マニュアルを基に支援を行っている。さん付けで呼びかけを行い、入室時のノックやトイレ利用時の目隠し等、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>要望に応じて対応しています。（衣類の選択、外出、散歩、好物など）</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日課の計画はあるが、その日の状態もある為、無理強いせず、その人のペースに合わせている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>本人の意思をしっかりと聞き、好きな服を選んでもらったりしています。同系色のみ着衣される方には別の色も似合うアドバイスもします。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや、食べたいものを聞いたり、お好み焼きつくりテーブルを囲み一緒に作ります。年に3~4回は、そば粉からそば麺つくりに入所者様から「こうしては、ああではない」など目の輝き、表情がとても良いです。	管理栄養士の献立を参考に、希望を聞きながら職員と利用者が個々の力量に応じて一緒に下ごしらえや下膳・片付け・食事を行っている。誕生日は好みの献立にしている。季節の行事食やそば打ち等、作る楽しみも取り入れている。外食は個々に年2回希望のところに行ったり、花見やアジサイ祭りはボランティアも参加し弁当持参して楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立を記録して同じ献立が続かないように考えて作っています。1日の目安1100~1300kcalで提供しています。水分摂取食事摂取量チェック実施、バランスを考慮して行っています。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前、食後のうがい、義歯洗浄等口腔ケアには細心の注意を払い実施しています。本人のできる部分は言葉かけして自立を促しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄表を作成し、時間間隔の把握を行いトイレ誘導を促し、一緒に付き添う。介助を要する方等、なるべくトイレで気持ち良く排泄されています。夜間はポータブルトイレ、尿とりパット交換で対応しています。	昼間は個々の排泄パターンに合わせてトイレへ誘導し、オムツ使用の利用者も2人介助でトイレでの排泄を促している。おむつや尿取りパットから布パンツに移行した事例がある。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜はなるべく繊維のある食材を使用しています。特にサツマイモ、サトイモ、山芋、ゴボウなどは懐かしく好んで食べられる。軽い運動、歩行訓練、おなかの周辺をマッサージや処方の緩下剤、漢方薬（セナ茶）で対応する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に一人週3回は入浴されています。只、希望者は実施することもある。入浴順番も説明して平等に行うも、どうしても一番風呂にこだわりのある人はそれなりに対応します。無理強いせず、納得の上で実施する。	入浴は週3回を基本に午後実施しているが、希望や皮膚疾患等で毎日入浴する利用者もいる。同性介助や複数介助・個浴を楽しんでいる。必要に応じ、シャワー浴、足浴、清拭等も行っている。いやがる利用者にはタイミングを見ながら誘導し、入浴剤を入れたりしている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠が浅い時は日中、うたた寝時はベッドで休息を促す。夜中に起きて来られた時は水分摂取を勧めたりすると再入眠されます。夜間はなるべく静かな環境を持つ。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は医師の説明と処方箋の説明書を介護職員に伝えて服薬する目的を理解し、個々の入所様にも服薬の理由を話、手渡しで飲用するまで確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課以外は、個々に過ごし方は違いがあるので、好きな事（テレビ鑑賞、カラオケ、塗り絵、ラジオを聴く散歩好き買い物）等ストレスをためない支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日に散歩、買い物、墓参り、ドライブを実施している。	日常的には利用者の体調と天候を見ながら車椅子の利用者も一緒に日光浴をしたり近隣を散歩している。職員も同行して墓参りや美容室・買い物・ドライブ・関連施設との交流を行っている。家族の協力を得て法事に行ったり・外泊をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預り金で管理（事務所自身で持ちたい方には家族の了解済で所持する。所持金（ダンスの中）安心されています。所持（5,000円）です。数人の職員で月1回は確認しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族に電話の依頼がよくありますので取り次ぐと気持ちよく話され安心されます。家族からも電話の取次ぎを依頼されるので取り次いで話をします。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温も各個々にエアコンが設置してあるので調整は希望設定で快適に過ごされています。空間も違和感の不満等は聞かれていません。	共用空間は天井が高く高窓からの採光も十分である。広くゆったりして開放的である。温度湿度の管理ができています。畳部屋もある。壁に写真や季節の飾り付けがある。ソファ等でくつろいだり居心地良く過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所（ソファ）にてテレビを見たり、昔話を語らいながら、くつろいでおられます。トイレも3箇所を有効に使用されています。窓から道路を眺めたりされて天気具合など話しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分のお部屋として好みのタンス、置き物、写真などを飾り、気持ちよく過ごせる空間になっています。	居室はベッドやクローゼット・タンスが設置されている。好みの家具やソファ・時計・カセットラジオ・温度計・写真を飾ったり・置物などを持ち込んでいる。必要に応じてセンサーマットや加湿器が置かれている。寝具はリースで対応し清潔である。居心地よく落ち着いて暮らせるように工夫されている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホール、トイレ、浴室などの部屋からの動線がスムーズに行けるように手すりの設置がしてあり転倒防止にも役立っています。ベッドサイド床にはすべり止めのマットが敷かれています。段差はないが、畳部屋の段差があるので入る時は付き添い転ばないように配慮しています。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない